

目的 前回 Vervaeck指数を基準にして肥満のtypeを抽出し、主成分分析を用い Vervaeck指数にもとづく形態特徴は見出し得た。しかし、体型の分類には、各種の基準方法があり、肥満の形態を考察する上で Vervaeck指数のみで良いだろうか。このことから今回はこれらの基準から検討を加え、肥満の形態を把握する。

方法 18~19才の健康な女子学生1000名を、Vervaeck指数を用い、細長標準、肥満のgroupに分けgroup別に乱数表を用いて110名ずつ抽出したが、実際の実験資料は312名である。この実験資料を Vervaeck, Broca, Rohrer, 標準体重の各基準により分類し、検討した。計測期間は昭和56年5~6月、計測時間は9~11時である。計測方法は、工業技術院による日本人体格調査に準拠した。計測項目は、胴部原型に必要な10項目と、上腕部を検討するための2項目、それに身長、体重、腰囲、肩下がり角度の計16項目である。

結果 固有値1.0以上の条件で、主成分分析を行なった。全実験資料では第3主成分迄あり、累積寄与率は74.80%。Vervaeck指数による分類では第6主成分迄あり、累積寄与率は76.79%。Broca指数による分類では第5主成分迄あり、累積寄与率は81.59%。Rohrer指数による分類では第5主成分迄あり、累積寄与率は77.79%。標準体重による分類では第6主成分迄あり、累積寄与率は77.04%であった。各指数により、負荷する項目に違いが見られた。